

第19回秦野市里山まつり実施報告書

1. 開会式・ステージイベント

スポーツ広場にて、里山まつり開会式典を行い、比田井会長のあいさつや秦野市を代表して高橋市長から秦野市の里山保全に対する取り組みや、市内ボランティアによる日頃の活動に対する謝意を表するあいさつが行われました。

また、ステージイベントとして、アルプホルンの演奏やチェーンソーアートの実演を行いました。



開会式（主催者挨拶）



表彰式（市長挨拶）



アルプホルンの演奏



チェーンソーアートの実演

2. 体験コーナー

○丸太切り・薪割り体験（スポーツ広場）

市内団体の活動地で伐採された木材の端材や丸太を使用し、丸太切り体験、薪割り体験を行いました。切った丸太はコースターとしてプレゼントし、薪割り体験で出来た薪はロケットストーブへくべて木材を活用できる工夫をしました。



丸太切り体験

○火おこし体験（スポーツ広場）

秦野スカウト会が木をこする方法で火起こしができる体験ブースを設置しました。

○全国削ろう会秦野大会関連体験コーナー

同時開催の第40回全国削ろう会に関連した、カンナ削り体験やカンナくずプール、カンナを使用した箸づくり体験ができるコーナーを設置しました。



カンナくずプール

○パラグライダー体験（陸上競技場）

丹沢スカイクラブによるパラグライダー体験では、事前申込のあった小学1～4年生までの15名が参加しました。

○simizzy+大山木材「玉コロガシ◎プロジェクト」（芝生広場）

大山木材による体験で、こどもたちが木製のオブジェアイテムを利用して自由にレーンを作り、カラフルなボールを転がして遊んでいました。



玉コロガシ◎プロジェクト

○林業なりきりコーナー

林業者の恰好をして、写真撮影を楽しんでもらうことで森林や林業に親しみ、興味を持てるようブースを設置しました。

○スタンプラリー（スポーツ広場、芝生広場、体育館ロビー、体育館内）
&木とのふれあい広場（体育館ロビー）

総合体育館で行っている全国削ろう会と里山まつり両方に参加してもらう工夫としてスタンプラリーを行いました。スタンプラリー台紙は木の紙で作製し、スタンプを集めた方にはヒノキ玉ガチャでヒノキ玉をプレゼントしました。また、ヒノキ玉プール、積み木を遊べる場所を作り、木製品とのふれあいを作りました。



3. 販売コーナー

里地・里山保全活動を行うボランティア団体により、各種模擬店の出店を行いました。

日頃の活動によって得られた農産物や木工製品、竹製品などの「里山のめぐみ」や飲食物の販売、団体の活動紹介パネルの設置を行いました。



模擬店

4. 結果

全国削ろう会は、2日間で1万5千人が来客し、10日に開催した里山まつりにも多くの方に参加していただき、秦野の大切な地域資源であり市民共有の財産である里地里山への意識をより一層高める絶好の機会となった。

また、今回は、令和7年1月1日に迎える市制施行70周年記念事業として、市民共有の財産である「秦野名水」の豊かな水源とこれを育む森林、建築大工等の優れた技能と建築・木工芸術文化を、次世代に引き継ぐことを目的として行われる第40回全国削ろう会と同時開催としたことで、体育館のメインアリーナで、匠の技をみて頂き、五感を使って「木」や「技」を体感・体験してもらえる場となりました。